

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 22 年 11 月 9 日(火) 19:30～21:00
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 あまみエフエム階下 ASIVI にて
- 3 出席委員 委員総数 8 名 出席委員数 8 名

出席委員の氏名

水間 忠秀／濱田 百合子／久岡 久乃／宇都宮 英之／
北之園 千春／再田 美紀／寿 浩義／築地 理昇

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／中原 優子／小野 健太郎／沖元 眞実／元井 庸介／
米澤 恵美子／盛島 拓史／宮田 愛／金城 よしの

4 議題

- ・ 番組内容の審議(「夕方フレンド」について)
- ・ 豪雨災害時における、あまみエフエムの放送の内容、対応等について

5 議事の概要

- (1) 番組内容の審議(「夕方フレンド」について)
- (2) 次回の審議議題について
- (3) 豪雨災害時における、あまみエフエムの放送の内容、対応等について

6 審議内容

- (1) 番組内容の審議(「夕方フレンド」について)

一放送局 丸田より、審議会への出席のお礼、および今回は、番組内容の審議に加えて、豪雨災害時の放送内容などについても意見をいただきたい旨連絡された。

水間議長

それでは早速番組内容の審議ということで、「夕方フレンド」についてのご意見を、寿委員からお願いします。

寿委員

(寿委員は住用のマングローブ公社支配人のため)今回は住用のほうで、皆様にご心配いただき、ありがとうございました。夕方フレンドについては、本放送の時間にはあまり聞けないので、昼間の再放送を(園内でエフエムを流している)仕事をしながら聞いています。回によっていろんな話が聞けるし、知っている人や、知らない人も活動のことをいろいろと聞けるので、結構楽しく聞いています。この番組については、いい悪いではなく、こういう番組があるということで楽しんで、また、毎日やっているのでタイムリーな情報を聞くことができるし、それでいいのではないかと思います。

久岡委員

今までいただいたCDの中で、一番安心して聞けるというのが印象的でした。すごく聞きやすかったし、内容もコンパクトになって、スタジオの様子みたいなのもわかるし、時間的な長さもちょうどよく、安心して聞ける、ラジオらしい番組だと思いました。この番組に関してはとくに意見などはありません。

なお、豪雨災害のことはまたあとでお話があると思いますが、皆さんの活動に感動しました。色んな人から、あまみエフエムが聞けたおかげで安心したというか、そういう言葉を多く聞いたりした。島ラジオというものが、災害のときだったんだけれども、島にとってはありがたい存在なんだと再認識しました。本当にみなさんお疲れ様でした。

築地委員

災害のときのディの活動にとっても感動しました。夜に仕事が遅くなって帰るときにもラジオつけたら(生放送で)ずっと流れていて、勇気付けられて、感動しました。ありがとうございました。

夕方フレンドについては、自分の知らないところでいろんな活動されている方がいらっしゃるんだ、とか知ることができて、とてもいい番組だと思います。また、パーソナリティの方の話方のことですが、ラジオって声しか聞こえないじゃないですか。声がきれてしまうと話がわからなくなるのですが、パーソナリティの方が、つないでつないで、よく話が展開できるなあと感じました。また、3人以上などの複数のゲストがいる場合に気になる点があり、(2人の場合はそうでもなかったのですが)名前を呼んで対話するのと、名前を言わずに対話するのでは、わかりやすさがぜんぜん違ってくるなと思いました。名前を呼ばないで対話すると、誰が話しているのかが、わかりにくくなる、その点が気になりました。ただ、きちんと名前を呼んで話されるときは、わかりやすかったと思います。それぐらいです。

濱田副議長

豪雨災害の時には、うちの従業員の妹さんが、2日間家族と連絡が取れずにいたところを、(ラジオにメールをしたのだと思うのですが、)回りの人が心配して声をかけてくれ、安心したということもあり、助かりました。お疲れ様でした。

夕方フレンドについては、部屋の中にいることが多いため毎日聞くことができないのですが、担当のパーソナリティの方で、名前を知らない人がいて、(CDの)最後の方は学生さんでしょうか?例えば、簡単でよいので、〇〇曜日を担当しているボランティアパーソナリティのだれそれです、という風に、もう少し自己紹介をしていたくなどしてほしいと思いました。男の子なのか女の子なのかもわからず、初めて聞く人にはパーソナリティについてもよくわからないと思うので。

そして、先ほど築地さんがおっしゃった、複数人数がいる場合についてですが、一対一の場合は耳から人物像を作っていくのですが、複数いる場合は、わかり辛く、名前を呼んでいただいても、3人ぐらいまでが限度かなと思いました。もうひとつ、丸田さんの回の、ベーシストの方を知らなくて、奄美では有名ということで、盛り上がっていたのですが、うちの従業員もしらなくて、その方のことがよくわかりませんでした。知り合いが来ると、通じ合っている中で、改めてお話を聞きだすのは難しいと思うけれども、ラジオを聞く側には、いろいろな年代の、ゲストのことを知らない人たちも多いと思うので、お話する前に、もう少しゲストの紹介をしてもらえるといいなと思いました。

話は前後すると思うのですが、話が得意ではない人から話を聞きだすというのが、大変だとは思いますが、リスナーは、そこを聞きたいと思うので、なんとか創意工夫をしてもらいたいなと思いました。もうひとつ、エンディングの音楽について「銀の龍の背に乗って」ですか、あの曲はお母さんが選んだのか、息子さんが好きだったの

か、いずれにせよゲストが選んでいると思うのですが、「こういう思い入れがあって」や、「こういう理由で」選んだ、という説明があると、最後までの流れがきれいなのかなと思いました。

宇都宮委員

災害の際にはお疲れ様でした。

さっき久岡さんがおっしゃったように、私もいい感じで作っているなと思いました、4人のパーソナリティがうまく話をつないで引き出せているなど。ただ、気になる点が2点あります。

構成のことで、5分ぐらいと、9分ぐらいの2つに分かれていますますがそれは？

—放送局より—

番組の構成が、前後編に分かれているためです。前半と後半の間にCMを挟んでいます。

また、今回始めてこのコーナーを聞いたのですが、一般のリスナーからの質問を受け付けるコーナーはあるのですか？

—放送局より—

コーナーの中で会話をしているときにメールが届き、間に合えば読むようにしています。

気がついたのは以上ぐらいでしょうか。雰囲気といい、長さといい、丁度いいなと思います。特に言うことはないです。あとは、次は誰がくるのかが気になるなと思いました。

再田委員

このたびは、こちらにいらっしゃる方も、豪雨災害で少なからず被害を受けられた方もいらっしゃると思うので、お見舞い申し上げます。皆さんお疲れ様でした。私も同様に感動いたしました。また、最後にお話を聞かせていただいたり、意見を申し上げたいと思います。

今回の夕方フレンドですが、私も出させていただいたこともあるのですが、ゲストをお招きして、これを聞こう、などのテーマがあるのですか？それは話の流れで掘り出していくのでしょうか？

—放送局より—

毎回いらっしゃるゲストの方々には、何か活動をされている方やイベントを行われる方ということでお招きしたりするので、そのことについてお話していただく形になっています。また、それらの活動やイベントをされることになったきっかけや思い、そして最終的にはイベントなどの告知をしていただいたりします。

では、その告知したいということについて、もう少しコーナーの中で、明確にした方がいいと思います。最初にするのか後にするのかは分からないのですが、「こういうことをした」という活動報告もありましたし、「これからあるのでそれを告知したい」というのもあり、それを聞きながら、はまださんのあっただんまドゥン！と似ているなと思いました。あっただんまドゥン！にはテーマがあり、音楽が入ったりとか、生い立ちだったりから入っていくのですが、似ているようで似ていないのは、活動をテーマにしていることかと。

活動の経緯を聞きながらも、何をまず訴えたいのか、テーマがはっきりしないときもあります。パーソナリティの方のお話のもって行き方で、流れがずいぶん変わってくると思うので、打ち合わせの際に、あらかじめ、ある程度、訴えたい点について確認すれば、ピントをずらさないよう話を持っていけるのではないかと。今回のCDだけでなく、本来、パーソナリティの方が分かっているべきなのに、ずれた方向にお話を持っていかれたり、ポイントが

外れていってしまうこともあります。揚げ足を取るつもりはないのですが、脚本なのか、演出なのか、そこは大事だと思います。伝えたいポイントを伝えないと、出演者の方にも失礼にあたると思いますし。

流れとしては、完成度の高い番組のひとつだと思うので、楽しみによく拝聴しています。

あえて言えば、メリハリというかここだけを伝えたい！というポイントを明確にしたほうがよいのではないのでしょうか。なんとなく、パーソナリティによってそのあたりがあいまいな気がします。

北之園委員

夕方フレンドについて僕が感じたことは、途中から聞いた人でも話にすっと入っていけるか、というところで気になる部分があったということです。例えば、バスケットのゲストの話などは、ああ、バスケットのことか、ああ、優勝したんだというように、内容もすぐにわかったのですが、そうでないゲストについては、何をやっている方なのか、と考えていて。ずーと聞いていて、終わりごろようやく分かる、途中から聞いているとですよ。そういうふうなこともあるので、後半のスタート、コマーシャルのあとのスタート部分で、上手に要約した説明を入れるなど、前半後半にわかれたスタイルでは、そういったことが重要ではないかと思いました。

あとは皆さんのおっしゃったようなことです。以上です。

水間議長

私のほうからですが、パーソナリティの方は、皆さんそれぞれに引き出しているなあと思いました。バスケットの子達についても、特に年下ということもあるからか、すごくいいテンポで話をしているなあと。目上の人に関してどうなのかは分からないのですが。

少しきつい言い方をすると、自分が出たときも感じたし、他の方がおっしゃったこともあるのですが、あらかじめ打ち合わせをしているのですが、放送上、なんかこう、ゲストの方に、話を聞き出そう聞き出そうとするのが、最初はちょっと冗長な感じがしました。どういう人で、どこ出身で何をやって、今回は何を伝えたいのかを、なるべく自然な形で、会話として聞き出そう、という気持ちは分かるのですが。ある程度、こういうことを話すと決まっているなら、パーソナリティの方が、はじめにゲストについて簡潔にまとめてしまったほうがいいのではないのでしょうか。「今日のゲストは、どこ出身で、何をやっている〇〇さんで、こういうことを聞きたいと思います」という具合に。そうでないと、時間がもったいない気がするのです。ゲストにもよるのですが、いつまでこの自己紹介を引き出すんだろう、というような。それだけで前半が終わってしまって、後半の時間が足りないときもある気がします。そして、北之園さんのおっしゃるように、後半の始まりにも同じように言えば分かりやすいかと。

また、以前も何度かお話したと思うのですが、夕方フレンドに係らず、丁寧語の表現がたまにおかしいときがあります。そこはもう少し気をつけていただきたいと思います。例えば、「東京でもやられている」(やられているって何だろう?)とか、「知っている方は」(ご存知の方はというべき?)とか、その場で的確に話すのは難しいとは思いますが、その辺りのことが気になりました。

その他の意見について

* 言葉使いなどについて

- ・ 「奄美出身、ベーシストでもある。」という表現はおかしいのではないのでしょうか。ベーシストが職業なので、本来は、「奄美出身で、ベーシストの」、という表現が正しいのではないのでしょうか。
- ・ 「激しい色使い」という表現について、「激しい色使い」ってどんな色使いだろうと思いました。

ニュアンス的にはわかるのですが、見ていない人にとって、カラフルなのか、書きなぐっているのか、イメージしづらかったです。

- ・ たまに方言が入ったり、標準語もまともでなかったり、言葉使いがでこぼこした感じが、多少島ラジオらしい部分でもあるのかと。自分はそこが楽しい部分でもあると思います。ただし、ゲストの方に失礼に当たるような言い方はよくないのではないかと思います。言葉に注意しすぎて萎縮してしまうようでは面白くなくなってしまうのかなと。その加減が難しいと思うのですが。
- ・ 丁寧語について、変に丁寧に言おうとして失敗するというか、普段使っていないのに、そこで無理やり使おうとして、おかしい表現になったりすると思います。NHKのアナウンサーみたいにきっちりやってくれという意味ではなく、とはいえ島の放送だからといって笑って流せるということではなくて、外からくるゲストにも自然に聞こえるレベルを心がけてほしいと思います。

* ボランティアパーソナリティについて

- ・ バスケのゲストのパーソナリティについては、私はあまり感じよい印象に思えませんでした。人物像が、性別、年齢も含め、どういう人なのか、想像しづらい感じを受けました。ゲストの先輩なのかもしれないですが、言葉使いなどがゲストに対するものとしてふさわしくないように思えました。

→この意見に対して

- ・ このパーソナリティは、バスケのコーチであり、自身も選手としてプレーする立場から、コーチとしてや先輩としての口調になりがちなところはあります。どうしても「体育会系」というか。その分、目上の人に対しては非常に礼儀正しい人です。また、緊張しているゲストの中学生に対しても、うまく突っ込んだりしてちゃんと引き出していると思えました。ゲストをいじるのはどうかとも思ったのですが、きっと信頼関係の上でなんだろうなど。

→この意見に対して

- ・ ただし、そのパーソナリティの人物像、個性は、初めてラジオを聞く人にはわからないですよ。せめて、「体育館でいつも会っているからいいよね」というような一言を付け加えれば、ゲストとの関係ももう少し分かるのではないかと思います。
- ・ このパーソナリティは、声の雰囲気やテンションが低く聞こえるので、そういう個性あらかじめ公表しておくといいかもかもしれません。そうすれば、リスナーの方もその情報を頭に入れて聞けるので、聞きやすいというか、安心して聞けるのではないのでしょうか。
- ・ 全てのパーソナリティの方の情報をホームページ上で公開してもいいのではないのでしょうか？ 顔写真までいらないけれども、この曜日はこういう方が、こういう話をする日というような、パーソナリティのそれぞれのカラーを出していけばいいのではないのでしょうか。また、むしろボランティアパーソナリティの方が、個性をアピールしていいのではないのでしょうか。初めて聞く人には、どちらがパーソナリティかゲストか分からないこともあるので、パーソナリティを個性で色づけするというか。

* そのほか

- ・ 明日のゲストはだれそれさんです、というように、コーナーの終わりにでも、次のゲストについて案内してくれるといいと思います。

水間議長

それでは、夕方フレンドについてはこれでいいでしょうか。それでは、引き続き、豪雨災害時のあまみエフエムの放送内容、対応について、意見をいただきたいと思います。

—放送局 麓代表—

その前に少し。今回、豪雨災害時に、20日のお昼12時から24日の夜8時まで生放送を行いました。台風を想定してという形では、以前に一晚、24時間体制は行ったことがあるのですが、今回のように長期にわたって放送したのは始めてで、手探りで放送を続けてみた、という状況です。

スタッフ全員でとりかかっては見たのですが、振り返ってみると、こちらに寄せられたメールが4日間の間に850件ぐらいありました。電話やファックスをまとめると、全部で1000件ぐらいだと思のですが。

防災協定を結んでいる関係もあり、市の対策本部にこちらのスタッフが常駐して停電や交通情報、通信の状態などのいろいろな情報を得、またそれに対しリスナーから具体的な情報をもらうという形ではありましたが、今回、市と防災協定を結んだことにより、笠利と住用にも中継局を立てることができていたので、奄美市内のエリアカバーができていたと思います。そんな中、後半、あまみエフエムが放送をしている“サマ”についての評価が強かったのではないかと思います。実際に、情報が的確でニーズにあったものであったか、ということについては疑わしいと、自分達では放送を振り返って思っています。24時間で放送したという体制においては、評価はいろいろあるとは思いますが、こういう情報がほしかった、こういうのがあるべきではないか、こういう伝え方もあったのではないかと、というようなご指摘をいただきたいと思います。

先ほどもご意見をいただきましたが、今まではあまみエフエムの活動やその放送の“サマ”についての評価をいただいており、許されている部分もあったと思うのですが、今回のことでどれだけリスナーさんが増えたかわかりませんが、はじめて聴くリスナーさんも増えたことも想定され、情報の内容や質について、ローカルコミュニティエフエムとしてきちりやるところと、個性として崩す部分のバランスを考えていかねばならないと思っております。そういったこともあり、ぜひ厳しい方向でご意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。

水間議長

自分も当日、お昼からリアルタイムに住用の現場にいました。普段インターネットなどを多く利用していますが、それらが切れると、便利な機器でも何もできないことを実感したのですが、コミュニティエフエムとか、地域エフエムとかそういう問題でなく、自分達の地域のラジオがあるというのはこんなにすごいことなんだと思いました。

また、放送を、24時間生放送に切り替えた、「決断の早さ」が評価できると思いました。

ただし、厳しい意見としては、聞こえづらい場所があったということ。住用町から、翌日歩きながら情報収集しようとしてラジオ(ポータブルのラジオを持っていたので)を聞こうとしたところ、あるところから全く聞こえなくなり、状況がすぐに見えなくなりました。

また、戻ってきてからは家でラジオをつけていたけれども、情報が多すぎたと思います。今回のようにあちらこちらが一気に大変なことになることは想定できなかったとは思いますが、どこかで聞き逃したものを見られる場所がほしいと思いました。例えばスタッフが24時間対策本部に張り付いているならば、その情報を、ファックスでもメールでも、文書化したものあれば体裁は関係ないので、ネットにぺたっと貼り付けるなど、ネット上でリアルタイムで見ることができればと。聞くだけでは、ほしい情報が全て取れるとはかぎらないと思います。次の体制として、検討してほしいと思いました。私からは以上です。

寿委員

今水間君からいろいろ出ていましたが、水間君は、現場にもいましたが、そのあとに、帰ってから名瀬で、情報を「見たい」と思ったのかと。でも、現場では、ラジオしか聞こえないわけ。だから、現場では、これ以上望むことはない。これだけでいい。電話ないし、ネットも見れない、携帯電話もとんだから。当日は、うちの施設で 40 人近くいたけど、停電で、水はないわ、そんな中で、ラジオを出してといわれて、エフエムをホールで流して。本当に、情報は、これだけ。電話がつながるのも 1 週間後とかだから。もちろんネットもないし。その間、体験交流館と救援物資の配達などで行き来しながら、車に乗った、その間に、ラジオでいろんな情報を仕入れるだけ。現場からしたら、ラジオが一番いい情報。テレビ見ても、集中的な部分しか写らないし。それはやはり全国向けというか、それだから。ひとつひとつの地域の状況がでてくるというのはやはり(コミュニティエフエムだからだと)。自分のところがめちゃくちゃだから、なかなか他のところまで考える余裕はなかったのだけど、少し余裕が出て、ゆっくり聞くようになってからは、(ラジオが)各地と電話でつなげて、各地の情報をすることもできたし。今回のことについては、特に言うことはないというか。情報のない隔離されたところでは、一番心強いというか、一番いい声だったと思いました。住用の人は、エフエムを、完全に喜んでいると思います。

久岡委員

うちにはラジオが入らないので、(現在龍郷町に住んでいるため)災害時には聞いていなかったのですが、少ししてからMBCテレビであまみエフエムの活躍を拝見したりしていました。また、友達が「あのラジオのおかげで救われた」という話を聞いたりしました。私の家は、国道に近いところにあるので、国道のココが崩れて通れない、などの情報もある程度入ったのですが、もうちょっと中の方に入った人たちは、自分達の周辺がどうなっているか全く分からなかったらしくて。その友達は、自分の家のラジオでは電波が入りづらくて聞けなかったのですが、その人のおばさんがたまたま上等なラジオを持っていて、それが電波を拾ったらしくて、真っ暗な中でラジオを聞いたのが本当に安心につながったとのことでした。

また、麓代表がテレビの取材で、「安心安堵の時間を作りたい」とおっしゃったのが、本当に鳥肌が立つほど感動しました。今回のことで、マスコミの「不安をあおる報道」に怒りを感じています。できるだけ最悪の場面を撮り、悪い部分ばかりを垂れ流して。誰かが少しいい材料を、と誰かがふっても、それどころではない、というような。そんな中だったので、「安心安堵の時間を作りたい」という気持ちをベースにして情報を流してくれるメディアの重要性を、強く感じました。非常事態で、ただでさえいろいろな情報が錯綜していましたので、冷静な判断ができず、またみんなが不安な中、そこがぶれなければ大丈夫と思いました。

それだけでした。

築地委員

僕は、ずっと名瀬にいて、僕自身や身内に被災した人が、幸いにしていなかったのですが、ラジオを聞いていて、連絡が取れない方とか、家がどうなっているかわからないという人たちにとって、エフエムで、〇〇さんはここに元気になっていますよ、とか、そういった放送をきくと、心配に思っていた方々が、安心するだろうな、と感じて、いい活動をしているな、と思いました。

あと、ネットなどでメールを送った方の文章を読んで、友達や家族に呼びかけているのを聞いて、こういうところは島のというか、人間関係の結びつきが強いなと、改めて感じて、大変な中でも感動していました。僕としては、あまみエフエムはいい活動をしているなあと、心から思いました。ありがとうございました。

濱田副議長

厳しい意見を、といわれたのですが。まず水間君が言ったように、決断がすごく早かったですね。24時間で生放送に入るということは、体力的なこともあると思いますし、通常の番組をやりながら災害情報を流すなど、他の放送形態もできなくはないと思うのですが、早期に決断できたのは本当によかったと思います。先ほど言ったように、うちの従業員の妹さんは、乳飲み子を含めた子どもを3人か4人抱えたお母さんだったので、ビッグⅡのところ「今から帰るよ」と言ったきり音信が途絶えてしまいました。その従業員も家族もとても心配していて、探しにいきたいので時間をくださいというので、すぐに行きなさいと。結果的には無事だったのですが、(エフエムで)メールなどで安否確認の放送を受け付けているみたいよと聞いて、送ったのでしょうか。公民館でその妹さんの周りの人が放送を聞いて、あんた大丈夫ね?と励ましてくれたということを後で聞きました。なにぶん乳飲み子を抱えて、少し動くのも大変だったと思うので、本当によかったと思いました。

災害にも役立てたいと、麓さんがラジオ局を作ってくれていたからよかったけれども、これがなければもっと皆さん悲惨な思いをしたと思います。こんな災害はまた来てほしくはないけれども、年配の人たちもかなりあまみエフエムの存在を知ったと思うし、必要性を実感されたと思うのですが。

まずは、厳しい意見というよりは、とりあえず本当に、ありがとうございました。お世話さまでした。

宇都宮委員

うちの集落は、あまみエフエムが途絶えていました。全く聞こえない状況で何日か過ぎました。電話はもちろん、携帯も、テレビもとまった。使えたのは、消防の防災無線だけ。消防からの指示は、消防車のエンジンをかけっぱなしにして、消防無線を外のスピーカーで流せと。少なくとも外の状況がわかると。流れてきたのは、国道がとまっていて、農協前がとまっているので、迂回路の情報などは流れてくるのですが、それ以外の情報が全く入ってこなかった。

先ほどあまみエフエムの電波が入る、入らないなどの意見がありましたが、一度、聞こえるエリアのマップを整備して、エリアマップを作ってほしいと思いました。集落によっては真ん中で別れる場合もあると思うのですが。そして、聞こえないエリアについてどのように対応できるかという可能性を探ってほしい。そのための地図です。

そして、もう一点、今回、いかにしてあまみエフエムに情報を正確に伝えるかが一番大きな課題だと思いました。難しいけれども、集落の情報をどうやって奄美エフエムに飛ばすか、ということです。もちろん公式情報については一度中央で咀嚼して、市役所などの役場から流すものだろうけど、それ以外の、各集落の生々しいものをどうやって集めるかということで、至難の業ですが。

エフエムの電波が交互通行の電波であればいいなと思ったのですが、そういうわけには行かないので。集落で何軒かはエフエムが聞こえるはずなのですが、こちらの情報をどうやってエフエムにバックするか。消防無線、警察無線ももちろん使えないとなると、どうするか。結論は出ていません。ある方は、鳩を飛ばすかと(笑)。もしくは、高価な衛星電話ですか?あれを常備するのも時間がかかることでしょう。各集落の情報をどうやって中央に飛ばすか、それが大きな課題だという意見が多く聞かれました。山を越えるような無線があればいいのだがとか、反射板みたいあのがあればとの意見もあったのですが、荒場の嘉渡や円は壁がないし、城もトンネルで反射板はつけられませんよね。ケースバイケースになるかもしれませんが、どうやって情報を中央に集めるか。やはり無線だと思うのですが。今後アイデアを出し合って、長い目で見て検討してほしいと思いました。

先ほど濱田さんが、もう二度とこんなことはあってほしくないとおっしゃっていましたが、知っている限りでは 2

年前の大雨で嘉渡集落が水没して、円集落の県道が両方つぶれました。その2年後が今回。前回は11月6日、今回は10月20日です。では2年ごとにあるのかと思えば、昨年10月23日に沖縄豪雨がありました。同じような天気図です。つまり条件が重なれば、毎年起きてもおかしくないわけで。毎年、沖縄か、奄美か、南九州かこのあたりに思い切り雨が降る状況が続いています。できればそういうことも踏まえて、少しずつでも、ひとつひとつでも対策が具体的になればいいなと思っています。

私も、当日は朝4時半から夜中の12時まで消防団でスコップをもって走り回っていましたが、皆さんの声が聞こえたらうれしかったかもしれない。以上です。

再田委員

私もそのときは龍郷町、浦にいました。雨足がひどくなってきたので、名瀬から身の危険を感じながら急いで龍郷町に帰った、そのあとに奄美市名瀬と龍郷町の間の中勝が崩れ、また職場に行くラインである空港線の屋入トンネルが崩れたと知りました。とにかく自宅に帰りついでから道路が寸断されてしまって。そのあと次々に停電、携帯が通じなくなり、あつというまに情報がシャットダウンした状況で。ものすごく不安を感じました。同じようにラジオも聞けませんでした。ですので、エフエムの活躍はあとで聞きました。龍郷町にエフエムが入ったらどんなに安心だっただろうと思いました。ひとつ厳しいことを言わせてもらおうと、龍郷町、全エリアにラジオを聞けるようにしてほしいと、後々ですが、本当に感じました。

その不安の真っ只中で、一番頼りになったのは、隣近所で顔が見れる距離の、コミュニティの中の結いといわれるものでした。あらゆる情報が寸断されて、できることが限られてくるなか、次にありがたいと思ったのが地元の消防団ですね。情報の収集にも身の危険を顧みず動いてくれました。道路が寸断された中、混乱をきたさないように誘導してくれたり。自宅の目の前の龍郷町の農協が崩れたり、常にサイレンが回っている、そしてそれらがいつ復旧するか分からないという不安な状況は、テレビでどんなに最悪の状況を取めようとしても、本当に最悪な状況は、伝わらないと思うのです。近くで土砂が崩れてお亡くなりになった方もいますが、そんな中、ボランティアの方が土砂をかき出して人命救助に奔走していました。見直すべきことが多すぎて、どこから整理して今後につなげたらいいのか、みんなの意見を聞きながら、対策を練っていくべきだと思います。

私が今回のことで気づいたのは、まず地元の結いの精神の大切さ、そしてあまみエフエムの存在について。そして、各地で復旧に尽力して下さった自衛隊の皆さんが本当に頼りになること。こういうことは、個人個人、また、いた場所などで感じ方が違うと思うので、この思いを忘れないうちに番組を作って、いろんな思いを語り、みんなで考える場、機会を作ってほしいと思いました。これから、もっと大事にすべきものを再確認してほしいと思いました。例えばひとつ、モラルというものを考えたときに、携帯電話のことを思うのですが、私の携帯は、仕事用も兼ねています。内地の方からの連絡が多かったのですが、切りたいけどお客さんだから切れないとか、そうこうしている間に本当に安否確認をしたい人と、2、3日音信不通になったり。具体的にどうすればいいか分からないけれども、こういうことひとつとっても、見直さなければならないモラルっていろいろあると思いました。(一宇都宮委員一片側通行で交通整理している消防団員のところを、無視して突っ切る車とかもいましたよ。)

また、身の危険を感じているのかいないのか、命がけで屋入トンネルを歩いて帰ってきた人がいたりとか。何もなかったからよかったけれども、そこで何か起きてしまったら、通してしまった人にも責任を問われるのか、自己責任なのか、とか。あとあと考えると怖いことがいっぱいあったのですが。この災害で、気づかされることがいっぱいありすぎて整理がつかない状況なのです。

また、あちらこちらで島ならではの感動秘話もまだまだいっぱい埋もれているはずです。これが奄美の魅力のひとつ、というようなエピソードも。そういうのもひとつ番組ができるのではないかと思います。

私は本当に、あえて厳しいことを言わせてもらうなら、島内全エリアに、安心安堵を伝えるツールとしてあまみエフエムが必要だなと実感しました。

また、職場もラジオが繋がらなかったのですが、県立図書館同様、アンテナを立てました。もう地デジ化されるし必要ないのでは？といわれましたが、エフエム用に使うのははじめてといわれたチューナーまで買って、かなり予算オーバーしましたが、今回強く必要性を感じたので。

そういうことで、今職場にはエフエムが入っています。ボランティア活動のこととか、ああ、こういうことをずっと放送していたんだな、と思いながら仕事をしています。聞く人としては、停電がどこどこです、交通情報はこうです、と一通り言ったあとに、エリア別に、例えば龍郷町は停電がどこ、交通情報はこう、というようにエリアごとにもう一度まとめて言ってくれたら、例えば龍郷町の人こそだけに集中して情報を聞けると思うんですね。聞き逃した情報をもう一度聞けるという意味でも。あと、久岡さんとも話をしたのですが、不安な中で、安心安堵を伝えるという意味では、これこそあまみエフエムのあり方ではないのかと思いましたので、そういうスタイルでこれからもがんばってください。

北之園委員

あんな状態の中で、一番大事なのは、生の声でずっと話し続けていてくれるということ、その安心感はずいなどと思いました。

私は名瀬にいたので、特に被害は受けなかったのですが、うちも、ラジオが車の中でしか聞こえないので、車の中に入って手書きで道路の地図を書いていました。

21日から23日に本庁からお客さんが来ることになっていましたので、こちらの情報を正確にあちらに伝える必要がありました。道路に×などをつけた手書きの地図をかいて、空港に降りられてもこちらに来る方法がない、などの情報を入手し、結局延期となりました。

ああいう風に、同じ情報であっても繰り返し繰り返ししゃべっていてくれるというのがありがたかったです。

沢山の情報を絶え間なく伝えていただいて、自分が動かずに情報を集めることができ、内地に正確な情報を届けることができたわけです。これがなければ、自分で情報を集めるために右往左往しなければならず、これを島中の方がすれば、交通状況も大変なことになったわけで、2時災害が起こりかねないことでもあったわけです。

そして、狭いエリアしか聞こえないのが大変残念だなと。これを機にあまみエフエムの有効さを認めてもらって、奄美全島で聞けるようにしてくれたらありがたいです。

その他情報

* 島外での情報配信について

- ・ 21日に名瀬に帰り、翌日もう一度住用に入ったのですが、そのときに印象的なことがあって。息子が住用にいて、連絡がとれないからと、東京から飛行機で飛んできて体験交流館で探し回っていた人がいらっしたんですよ。先ほど島内でラジオが聞ける聞けない、という話がありましたが、こういうことがあると、島外で心配している人もたくさんいるのだらうなと。また、今回は携帯が聞こえなくなったという、想定外の事態だったと思うのですが、島内の情報を知りたい島外の人のためにも、ラジオだけでなくネットなどいろんな方法を使って、島外にも安心安堵を伝える体制を整えてほしい。すでにネットラジオなどは計画に入っている

とは思いますが。著作権に関係しない、交通情報であるとか、ライフラインの情報、安否確認などの情報だけでもネットで流せないかなと思いました。

* 島内の情報配信について

・ とにかく情報が、とれなかったのよ。携帯が通じなくなったということが本当に想定外で。歩いて現場に行き確認しないとイケない。その、現場にいかないと見えないということが、見に行っても、帰ってくるあいだにまた崩れたりして情報が変わっていたり。体験交流館では、どこが通れる、どこが通れないなどの情報が錯綜していました。なので、複数の人に確認して、統一した情報しか信じるといっていました。そんな中、情報として一番信用できたのはラジオでした。住用は支所の中だけで情報が飛んでいた。衛星電話を使えるのはえらい人だけで、現場に走って情報を持ってきてくれる人は、自分が持っている情報だけしか知らなくて他のことは分からない。本当に、車に乗っているときだけラジオで情報収集ができた。

ラジオで聞き逃したら、確認できないので待つしかないという意見もありましたが、何度も言ってくれたから。本当に真っ暗な中に話し声があるだけで落ち着いたというか。あれは一番の喜びというか、そういうのがあったね。

・ モービルハムといいますか、アマチュア無線の移動局について。災害のたびに脚光を浴びるのだけど普段から使っている人はどんどん減ってきているのですが、消防無線と警察無線は公共無線であり、使えないのですが、無線は交互通信ができるので、各地との情報のやり取りに使えるかと思うのですが。

・ コミュニティエフエムということですから、独自に、龍郷町とか、奄美全域に、電波が入るようにするということは非常に難しいことだと思います。国も国交省も含めて考えないとイケないことであると思います。来てほしくないけれども、今後も同じような災害が来る可能性も高いということであれば尚のこと。

・ 携帯電話が通じなかったというのは、日本で初めての災害というのをニュースで見ました。どこの地震でも、携帯はつながったから助かったとか。中国であった災害でも携帯は通じたいです。今回は、全ての携帯電話会社のものが通じませんでした。奄美は特異な地域で、山の上にアンテナを立てると山陰になって電波が入らないところが多いので、基地局のアンテナは平地の低いところに立てていたのが、全て水没してしまっ。携帯が通じなかったという情報は全国に流れたのですよね。だから携帯会社もイメージダウンを恐れて考えるとは思いますが。そういうことも含めて、もはや島内のことだけでない、国にも対策を考えてもらうほうが良いと思うのです。あまみエフエムが今回評価をされて、実績を残したので、その実績を元に直談判も含めて。通じないという地域があるのであれば、今回の実績があれば、なんとかしようと思わない人はいないと思います。実際、電気がついて、テレビを見ても、地元がほしい情報は何にもなくて。雨が何ミリ降ったとか、そんなことはどうでもいい。どこが通れない、いつ開通する、スーパーの情報は、など、そんな情報は、コミュニティエフエムでしか放送できないのではない。災害の現場をどんなにテレビで写しても、被災地にいる人には不安をあおるだけでなんにもならない。

・ 災害時などに、あちこちから来る情報の、どれを放送していいか悩むところではないかと思うので、あらかじめ各地の特配員をおいておくとか。この地域の情報はこの人に聞く、というような。(寿委員)20日の日に、どこから「あとで番組で伝えてください」といっていて、了解したのち、

通信手段が途絶えて無理になりました(笑)

- ・ 阪神淡路の震災のときに、瓦礫の山の前にメモ書きをおくことをしていたと聞きました。心配して見に来てくれた人が、この瓦礫の下にいたらどうしよう、と心配しないために、「無事に、どここの避難所にいます」というように。エフエムにできることは、そういったことではないかと思うので。誰かが無事にいる、ということ、一方通行でもよいので、その情報を届けてくれたら、安心して助かる人がいる、それが大事なのでは。

(2) 次回の審議議題について

一放送局 丸田より、次回の審議内容について「おるみさんのおばチャンネル」であることが報告された。また、元井より、番組の簡単な説明がされた。

(3) その他意見などについて

とくに意見等は出なかった。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 22 年 11 月 20 日(土曜日)17:30-「ゆふいニング・アワー」番組内で放送
- ② 書面の備置き:平成 22 年 11 月 20 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 22 年 11 月 20 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし